

こうげい

都立工芸同窓会会報 No.181

2023年(令和5年)4月10日発行

春 Spring, 2023

投稿を歓迎します

- ・皆様のお仕事などでの成果、創作、社会貢献など、ご活躍のご様子をぜひお知らせください。
- ・クラス会の様子もお知らせください。

郵送先：都立工芸同窓会

(住所は工芸高等学校と同じで、最終ページにあります。)

またはホームページのお問い合わせより

ご投稿ください。



2023年度総会(ごあんない)

日時：5月20日(土) 受付 午前10時10分から

報告会

午前10時40分～11時20分 会場 視聴覚室

「専門高校生海外派遣事業アラブ首長国連邦(UAE)研修同行報告」
報告：伊藤聖樹氏(2018年・I卒 現在、定時制インテリア科教員)

総会

午前11時30分～12時30分 会場 視聴覚室

- ・総会後の懇親会は行いません。ご出席の方は、同封のハガキに必要事項をご記入のうえ、5月8日までに投函をお願いします。
- ・ホームページからのお申し込みもできます。

UAE海外研修に 同行して

日本の高校生を海外研修に連れていき、各国の文化や多様化される世界についてより深く学び、これからの社会に生かす国内外を問わず活躍できる人材を育成するために、今年から高校生の海外派遣研修事業が始まりました。本校定時制課程インテリア科の生徒2名がこれに参加し、アラブ首長国連邦で普段の学校では感じることができない発見を多くしてきました。生徒が現地で学んだ経験を活かし工芸高校の実習やその他、周りに与える影響に大きな変化が見受けられました。自身の高校生活を通して磨いてきた感性と、新しい刺激を受けて生まれた感性が合わさるときに、全く新しい発見や驚きが生まれます。それを工芸高校としての共有の財産としていきたいです。そのため今回の報告会を通して伝えさせていきます。



同窓会活動報告とお願い

梶 広幸

コロナ禍も先が見えて来たかのように思われます。クラス会などの同窓生の交流や情報交換も制限されたかと思えます。この状況下で同窓会の役割である同窓生の動向や情報、学校の動向や在校生の活躍の発信の重要性が増しております。

同窓会では機関紙「こうげい」「同窓会ホームページ」「同窓会公式ツイッター」を運営しております。皆様にも、同窓会からの情報の発信や配信をご覧頂いている状況ですが会費納入を頂いている状況やホームページのアンケートから「こうげい」の読者は五～六十代以上の方が中心、ホームページは三十代から五十代の方、ツイッターは若い方中心と成っています。そこで三媒体での情報の共通化と媒体の特徴を生かした編集を進めております。ホームページは毎週の出来事を発信、「こうげい」では基本情報を深掘りした記事の掲載を、ツイッターでは関連情報の素早いリンクと発信をしております。昨年10月にはホームページの劈頭にあり「私たちはその絆を大切にしながら、同窓会として母校の発展や在校生への応援をしていきたい」との思いを実現すべく、事業委員会が発足しました。早速事業イベントの企画を進めており同窓会の皆様のご協力をお願い申し上げます。

つながり合う工芸高校

都立工芸高等学校 全日制 PTA 会長

笹原良太



令和4年度全日制PTA会長を仰せつ
かっております、笹原良太です。

二人の子どもが工芸高校にお世話になっ
ております関係でPTA会長も2度目で6
期目と私自身も工芸高校と都立工芸同窓会
の方々には長らくお世話になっている次第
です。特に110周年記念式典にて実行委
員長を仰せつかった際には多大なるお力添
えをいただき、本当にありがとうございます。
した。

話は変わりまして皆さんからすると
PTAとはどのようなものでしょうか？私
は憎悪ながら工芸高校PTAの他、東京都
の小学校、中学校、高校のPTA連合組織
のお手伝いもしております。その活動の中
でこのコロナの3年間の間に委員会制度の
撤廃などで様変わりしたPTA、廃止になっ
たPTAなど色々見てきました。

良い変化なのか？悪い変化なのか？それ
は見方によって変わるものですが、いずれ
にしても昨今PTAという組織は社会的
的にネガティブな要素が先行しており、ちょ
うど変革期だったのかもしれない。おっと、
この話は長くなるので今日はやめておきま
す。(笑)

さてそんな3年間のなか私たち工芸高校
PTAはどうだったのか？

結論から申し上げると工芸高校PTA
はIT化も進み、結果的にはコロナ前のス
ベックのままさらにアップデートされた状
況です。もちろんコロナによる行事の中止
や活動停止による踏襲の途切れの影響もあ
ります。しかし活動停止を逆手にとり、会
えずとも保護者同士で「つながり合う」活
動意識を持っていただけるように、この3
年間ずっと伝えさせていただきました。

保護者同士と教職員の方々とのつながり
から生まれる力こそが子どもたちを見守
り、今と将来をサポートすることができ
るPTAの真の力です。この優れた保護者の
方々からなる工芸高校PTAにおける活動
の二丁目一番地は「つながりを生み出す場」
であるということだと思います。

今現在は定時制PTAの皆さんとも再び
連携できるようになりましたし、都立工芸
同窓会の方々ともより一層力を合わせ、子
どもたちの幸せや工芸高校が一層発展でき
るよう「つながり合う力」を強固にさせて
いただければ幸いです。

自分の居場所を

見つけた子どもたち

都立工芸高等学校 定時制 PTA 会長

古里美樹

都立工芸同窓会の皆様、はじめまして。

定時制PTA会長の古里と申します。歴
史ある都立工芸高校の重みも感じながら、
「築地工芸会」から新たに変化していく
節目に、寄稿させていただき大変うれし
く思います。

平素は、現役の生徒達の学校生活を支
えてくださり、深く感謝いたします。

私たち定時制PTAでは、能動的に「参
加、協力」を仰げるPTAを発信してい
こうと、昨年度後期より様々な取り組み
に挑戦してまいりました。手始めは会議
室とオンラインを併用したハイブリット
運営委員会や定例会の開催でした。総会
の承認もWebを活用し、今年度はオン
ラインにすることで、本来の時期に開催
することができました。現状に合わせて、
予算編成や会則もだいたい見直し承認を頂
きました。

空白の2年間を経て、今年度は文化部
の「ものづくり体験」企画も復活しまし
た。子どもたちが工芸で学ばせていただ
いているから、保護者もものづくりを楽
しもうという企画です。会員や在校生に
は参加費補助も取り入れ、6企画12回開

催しております。毎回、PTA会員や家族、
在校生や卒業生など老若男女が集まって、
楽しいひとときを共有しています。さす
がに工芸の関係者だけあり、創作に入る
と各々の世界観を表現すべく、真剣その
もの……講師の先生も驚く程の作品が出
来上がります。また、1つの企画は、工
芸祭で出会った同窓会の方に快くお引き
受けいただき、組紐の工房見学と制作体
験をさせていただきました。同窓会の皆
様にも、これはという体験をお声掛けい
ただけましたら幸いです。

定時制の在校生は、ものづくりや自己
表現が大好きな人の集合体であるのと同
時に、入学までの道程には、様々な背景
を抱えている人も少なくありません。お
互いに適度な距離を保ちながら、創作活
動において尊重しあえる「居場所」が工
芸の定時制なのではないでしょうか。そ
の居場所を守るために、今後も、同窓会
の皆様にご協力いただけましたら幸いです。



ものづくり体験作品

関西工芸会だより

事務局の結婚

世の中明るいニューズが乏しい昨今、関西工芸会からは私事なのですが明るいニューズをお届けします。

昨年十一月三日、関西工芸会の皆様には思い入れ深い、過去に関西工芸会の集いが開催されてきた文化の日に、神戸の洋館にて手作りの結婚式を挙げました。

結婚する前から関西工芸会の集いにも皆様が妻を快く迎え入れて下さり、神山先生や会員の皆様から沢山の祝福を頂戴し感謝いたしております。

ジュエリー職人として、苜屋のGinellに就職して20年。これまで数多くの婚約・結婚指輪を制作して参りました。この度私自身が妻の為に作れた事はとても感慨深くジュエリー職人を目指すきっかけとなった工芸高校A科の彫金の授業や、先生・校友との出会いの原点を思い出し、家庭を持った者としてより一層ものづくり道に精進していこうと誓いました。

東京の友人代表でA科の親友を招き、親友がダイヤを扱う仕事をしているので引き出物に私が制作した作品にダイヤを入れたサプライズをしました。

今年こそ関西工芸会の集いが出来る状況になる事を願い準備をして参ります。

関西工芸会事務局 松田健(2001年・A卒)

中京工芸会だより

「前向きな戦い」の年に

令和4年の昨年は、制限付きながらも三年ぶりの開催の文字も見受けられました。母校の体育祭と工芸祭の開催記事に安堵もしました。想い出一杯の工芸生活を思い返す度、在校生の無念さに心が痛みます。コロナ禍の戦いと、ウクライナ侵攻とで、あらゆる面が急速な変化をして、新たな時代に入ったように感じられます。

中京工芸会も残念ながら昨年の春に下山田名誉会長(1948年・M卒)をお見送りして、秋には後を引き継いだ五反田会長(1960年・M卒)に食道ガンが見つかり抗がん剤での戦いを続けておられます。幸いにも二度の入院治療は順調のご様子で元気ないつものお声にホッとしております。四人に一人がガンになると言われている時代ですから「陽気な闘病記」をお願い致しましたが、代筆にての公表と相成りました。健やか便りとしての広がりがあれば幸いです。高齢者ばかりの集いとなったので、「コロナ対策も「老いとの戦い」

でもあり、安心な少人数での開催を検討し、会報を通じて、お知らせ出来る年にしたいですね！

中京工芸会事務局

井上京子(旧姓:今泉 1975年・F卒)

事業プロジェクト報告

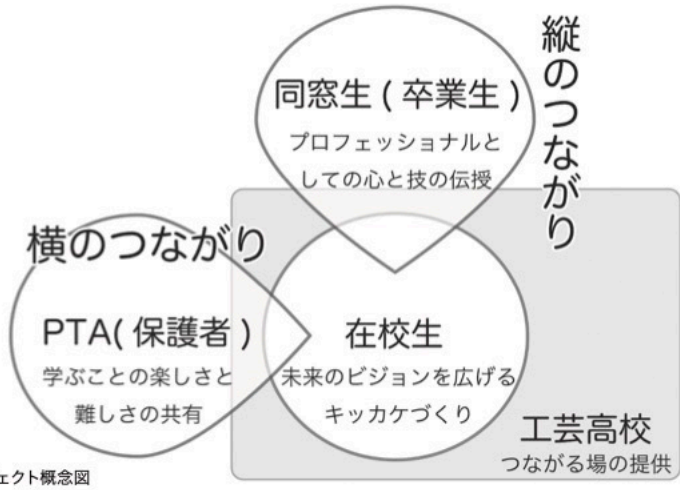
事業委員会プロジェクト 菊地 和浩

昨年同窓会の規約改正があり、今後の同窓会の指針が示されるなか事業プロジェクト委員会の設置が決定されました。10月にプロジェクトが立ち上がり、各科目より選出された委員により企画検討を重ねております。現在検討中のプロジェクトの概要と進捗をご報告致します。

当初物販等も検討されましたが、同窓生が主体となり縦と横の世代の「学びのある交流」を目的にした「つながるみんなの工芸祭」(仮称)を企画検討することになりました。これは都立工芸同窓会ホームページ劈頭の同窓会の理念に基づいたもので「工芸」という心の中で繋がりたい、工芸という学び舎で貴重な時間を過ごし、今まさに、同窓生は様々な分野で活躍しています。私たちはその絆を大切にしながら、同窓会として母校の発展や在校生への応援をしていきたいと思

います。「この思いを具現化すべく、同世代の横のつながりよりもより世代を超えた縦のつながりも貴重な資産であると捉え、本校ならではの有意義で貴重な体験を共有することを目指しております。(図)本プロジェクトは、在校生・PTA・同窓生の参加、一度きりのイベントではなく継続的な開催を想定しておりますが、まだ

具体的な実施内容については検討中であり、在校生は基より参加者にメリットを感じていただける集いにすべく各位に虚心坦懐にご意見を伺っている段階でございます。実現までにはまだ乗り越えなくてはならない壁もあり、拙速にならないよう準備を整えております。卒業生の皆さまのお知恵、お力添えがこのプロジェクトを成功させる為の頼みの綱となります。皆様のご理解、そして積極的な参加の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



事業プロジェクト概念図

武蔵野美術大学『原弘と造型』1920年代の新興美術運動から』を見学して。

久保 遊 (2004年・G卒)

8月某日、武蔵野美術大学で開館されていた、原弘展に訪問しました。コロナ禍もあって生徒も連れてゆく旨大学美術館に伝えて予約したところ、大学美術館の方から「ご厚意により、施設の方の解説付きで鑑賞させて頂きました。」

原氏は1918年東京府立工芸学校に新設された印刷科で学び、41年まで本校で教鞭を振るわれた後、東方社で『FRONT』のディレクション、日本宣伝美術会設立参加グラフィックの参加、1964年東京オリオンピックデザイン懇談会委員を務められるなど、昭和日本を代表するグラフィックデザイナーでした。府立工芸の教員時代は前記の仕事をする傍ら、帝国美術学校にその教壇を移され、武蔵野美術大学に改組されるまで教鞭を振るわれました。

今回の展示では、府立工芸時代の生徒、教員両時代の課題作品から始まり、日本の文字文化に「新活版術研究」としてニュー・タイプグラフィックを輸入してゆくまでの研究や研鑽が紹介され、氏の華やかなグラフィックデザインの実績に埋もれがちな、造本や商用デザインといったディレクション視点を

中心に展示が構成されていました。大学構内展示でありながら、私の大学時代の恩師高島直之名誉教授の深い研究と監修を基に、原氏の華やかなデザイナー時代の礎となった活動や研究が展示構成されており、今まで書物では短文で済まされてしまうことが多かった、原氏の府立工芸時代の実態やグラフィックアートに対する思想を知ることができました。

形を変えて今でもグラフィックアーツ科のカリキュラムにあるリトグラフの課題作品が展示されており、その技術力には、グラフィックデザインだけでなく印刷や紙の質にもこだわった、原氏の当時としては早すぎるプリントディレクションの視点を感じることができました。石版リトグラフは印刷後、クレヨンで版下を描画され油化した層をすべて研磨してそぎ落とします。当時の絵柄はおそらく残っていないでしょうが、展示作品に使われた石灰版は今も実習室に残っているかもしれません。生徒と共に観るリトグラフの課題には、自分たちにも共通する懐かしさも感じる一方で、府立工芸教員時代の造形運動では偽名を使って活動されていた事実を知り、戦時下に敵国の文化を扱うというデリケートな行動を通しても自ら独学した諸外国の新しい表現術を、自身の仕事に昇華させていった原氏の姿勢に、バイオニアとしての凄まじい熱意を感じました。

大学美術館の方の計らいで、展示を監修

された高島名誉教授ともお会いできました。時代を超えて工芸の後輩たちが、偉大な先人の作品に邂逅できたことに、大変感激していました。原氏の時代には印刷科だった科名も、グラフィックアーツ科に科名変更して30年以上が経ちました。他で聞くことの少なかったこの言葉も、来春から武蔵野美術大学版画学科が科名変更し、グラフィックアーツ科になります。グラフィックアーツの大先輩の展示見学後は、生徒を引き連れて未来の新たなグラフィックアーツ科の学び舎となる、版画学科のアトリエ周辺（デザイン科卒業生、漫画家羽海野チカさんの「ハチミツとクロバネ」の作中参考施設もあるあたりです）を散策して、大学見学を後にしました。

この日見学を共にした生徒が、また新たにグラフィックアーツを担う人材となることに期待するとともに、当日の見学はグラフィックアーツの温故知新を感じることのできるよい機会となりました。



1 図版すべて、武蔵野美術大学 美術館・図書館「原弘と造型、一九二〇年代の新興美術運動から」より
ディレクションとして最も有名で、工芸の図書室でも複製が閲覧できるFRONT



2 早川名義で刊行されていたとされるポスター。



3 実習助手時代は、卒業生実習制作に自作も掲載。その一部。



校友の活躍

オーストラリア在住の小野一秋氏(1988年・D卒)写真家、CMディレクターで活躍

工芸高校の卒業式を終えた後も、やり残した課題を終えるため、水道橋へ通っていたのが懐かしい。当時問題児として先生方にご迷惑をお掛けしたことを、今は素直に申し訳なかつたと思います。

その後僕は、写真家としての道を歩み、現在は南半球のシドニーにて、フォトグラフィア／映像ディレクターとして、ジャンルを問わず活動しています。

拠点を海外へ移した細かい理由はさておき、大きくは仕事のためというよりライフスタイルが性に合うから、といったところ。日本在住時にはクルマ・バイクの専門家として、広告と雑誌などを撮っていました。オーストラリアへ移住してからというもの、

ジャンルの垣根はなくなり、海外クライアントのプロジェクトに関わり、シドニーに住みながら、時には日本や、その他の国へ飛んで行って撮影をするスタイルです。

また、長年写真と映像に対して、自分しかできないこだわりを持って取り組んできたことよって、想像もなかった方面から依頼を受けることが増えました。2018年〜2019年のサッカーシーズン、本田圭佑選手がメルボルンのチームと契約を交わした際、彼からダイレクトで専属カメラマンとしての依頼がありました。多くのカメラマン候補の中から彼が僕を選んだ理由としては「この人なら格好良いものを撮ってくれる、そう思ったんです」という言葉でした。ひとりの写真家として、こう言われて引き下がる理由はなく、それから試合時も食事もトレーニングもプライベートをもひたすら撮り続けたものです。彼のブランディングのサポートをするという意味で、広告屋である僕のキャリアが生きたカタチです。

記憶に新しいコロナ禍の期間、失った仕事も多々ありましたが、その状況下で必要とされた仕事が、僕にとって新たな経験をもたらしてくれることになりました。その一つが、日本航空(JAL)が50年前から出版を続けているカレンダーの撮影で、僕はオーストラリアとニュージーランドを担当することになり、2022年版と2023年版の紙面を飾りました。デジタル化し、全てのスピード感が変化した近年、この撮影



本田圭佑選手

ではたった一枚の写真に全身全霊を傾ける、初心に帰る様な、新鮮なプレッシャーで洗われるような体験でした。

もう一つ忘れられない仕事があります。2020年12月、この時もコロナ禍でロッキングダウンをしている都市が多かった時期ですが、日本のJAXAが打ち上げた「はやぶさ2」カプセル回収プロジェクトがサウスオーストラリアで行われた際、写真と映像による全ての記録撮影を包括する立場として現場に入りました。報道対応も含めて臨機応変に撮れるものを全て撮らなくてはいけない、そういう現場です。「星のかけらを取りに行く」という夢とロマンと、そして最先端の技術の一端を目の当たりにし、涙が流れるほどの感動に身も心も震えた撮影でした。自分の信じる道が続けることで、必ず何が巡り巡って帰ってくる。そんな体験が自身を今も成長させてくれています。

インテリア科 O・B・OG 展示開催中

3月12日より9月中旬までの約半年間、母校O・B・OG展示ギャラリーにてI科の展示が行われています。

出展は、S62 加藤秀己さん、H10 江口裕子さん、H16 北嶋悠史さん、H18 きくちゆうきさん、H20 草野浩毅さん、H24 小幡光さん、H30 伊藤聖樹さん(2022年度より定時制教員)、H30 八幡萌乃さんです。

木工、三味線、グラフィック、イラスト、建築など様々な業種に携わるO・B・OGの活躍の様子を是非ご覧ください。



JAL カレンダー-2023



1階 卒業生作品展示ギャラリー 展示風景



アートコレクターズ2022年5月号に「デジタル画像とエディション」と題して版画や写真、映像作品などの複製可能な作品の限定品である「エディション」作品と、デジタル画像やNFTとの関係性について論じたテキストを寄稿しました。

私はデジタル画像の美学を研究しています。ピクセルがそのまま見えてしまつジャギーやデータが破損することで現れるグリッチが美しいのは、そこにデジタル画像の演算処理が立ち現れてくるからこそではないかと考えます。ところで、デジタル画像を単位とした作品は、商業的に成立し得るのでしょうか。

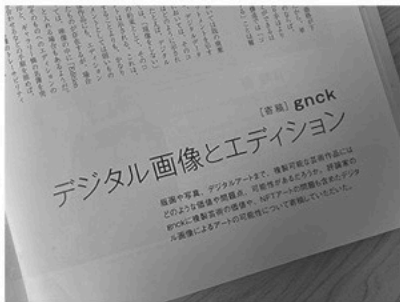
たとえば複製芸術である版画では、印刷される枚数をはじめからエディションとして設定し、場合によっては版そのものを廃棄することで、それ以上の作品を制作しないことへのコミットメントを示します。デジタルデータには、複製がいくらかでも可能で

あることが、その本質的な性質として備わっています。持ち主の証明として昨今話題となっているのがNFTブロックチェーン技術を利用した代替不能トークンです。NFTアートは、果たして版画のようなコミットメントと見做せるのでしょうか。

実際には、版画であっても版元がこつそりと複製版を作り事件になるなど、版の廃棄のような「たった一つ」のコミットメントでは必ずしも信頼できる方法とは言えません。NFTも同様に、その発行元のそもそもの信頼性や、ギャラリーなどの仲介者の信頼性といった、複合的な信頼の担保が必要であることは、版画と変わらないでしょう。

また、美術館が購入・収蔵するためには、暗号資産が必須であるNFTという枠組みを使うよりも、これまでも写真作品や映像作品の購入の際にも交わされていた、販売契約という枠組みをアレンジして使うことの方が安定性があるでしょう。

デジタル画像であろうと、紙に印刷されていようと、それが作品として成立している



月刊『アートコレクターズ』2022年5月号 P22

ることは自明だと思います。それが資産的な、あるいは文化財としての下支えを得るとすれば、どのような形になるか、考察しました。

眞田 李風氏(2019年・M卒)

IPMS (International Plastic Modellers' Society)にて銅賞受賞

こんにちは、はじめまして。

2018年度、マシクラフト科卒業の、眞田 李風と申します。

昨年12月に、世界的な模型愛好団体の日本支部が開催したコンテストでの受賞と、僕の模型制作と工芸高校の繋がりを紹介させていただきます。

僕は工芸高校に入るタイミングで、趣味であるプラモデルを本格的に始めました。工芸高校では模型部と山岳部に所属し、工芸祭では日頃制作したプラモデルを展示していました。

マシクラフト科2年生の時、工芸祭での僕の模型展示を見て来て下さった藤岡さんに誘われ、模型サークルB.M.C.に入会しました。

サークルメンバーの作品から技法を学んだり、直接アドバイスを頂くなど、一気に世界が広がった瞬間でした。

今でも楽しく月例会やサークルでの展示会に参加させて頂いており、早いもので入会から5年が経とうとしています。

そんな中で、日頃から制作していた作品が昨年12月、IPMS (International Plastic Modellers' Society)にて銅賞を頂きました。

制作したBT-97という飛行機、3DCADと3Dプリンターを使用しキットを改造、唯一無二の仕様で制作しました。

3DCADは工芸高校時代に授業で触ったことがあるからこそ、自分の趣味に応用できている技術です。

そのほかにも、組み立て、塗装、研磨などの作業がありました。自分の技術もマシクラフト科で磨かれた経験がベースとなっています。

もともとモノ作りが好きで入った工芸高校、現在の自分の活動と技術に向け、大きく加速をさせてくれた大変思い出深い学校です。



International Plastic Modellers' Societyにて銅賞

企画展

原弘企画展

「原弘と造型」：1920年代の新興美術運動から」

原弘氏（1921年・P卒 1903-1986）

本校グラフィックアート科（旧印刷科）第一回生で、工芸高校で教鞭も取られていた原弘氏の「原弘と造型」：1920年代の新興美術運動から」展が昨年9月5日から10月2日まで武蔵野美術大学美術館（小平市）で開催されました。

近代日本グラフィックデザインの先駆けであった氏の作品や当時の貴重な資料、府立工芸に生徒として在籍していた頃のリトグラフ課題作品や工芸で教鞭を取っていた頃の資料などが展示されました。



校友の活躍

永井裕明氏

東京造形大学退官記念展

「半心半技」が東京造形大学附属美術館で開催されました（2022年9月1日-10月3日）

永井裕明氏（1977年・D卒）

永井氏は1989年にN.G.I.N.C.を設立。広告デザイン、ブランディングほか幅広くグラフィックデザインを手がけています。2014年4月から2022年3月まで東京造形大学教授。東京アートディレクターズクラブ（AOC）会員。工芸百年史「都立工芸100年のあゆみ」の装丁デザインもされ、同装丁は2009年の第44回造本装丁コンクルの社史・年史部門で最優秀賞を受賞いたしました。



個展

中村桃子個展「faces」

GINZASIX 高屋書店

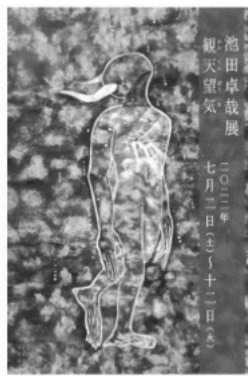
中村桃子氏（2010年・A卒）



池田卓哉展「観天望気」

六本木ストライプハウスギャラリー

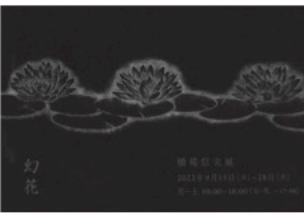
池田卓哉氏（2010年・D卒）



橋場信夫個展「幻花」

帝国ホテルアーケード内「絵画堂」

橋場信夫氏（1969年・D卒）



グループ展

第6回模型サークルB.M.C.展示会

東商センター展示場A室

第六回模型サークルB.M.C.展示会

2022
10/15(Sat) > 16(Sun)
11:00-17:30 10:30-15:00

東京都台東区浅草橋
東商センター展示場A室

B.M.C.とは?
ToshikoとMitsuoの模型サークルです。1978年に設立された模型サークルです。現在は、模型製作の楽しさを伝えるために、初心者の方にも参加しやすいよう、体験型イベントを開催しています。

注意事項
●会場内では20歳以上の大人のみ入場できます。
●マスクを着用していない方は入場できません。
●会場内では飲食はできません。
●会場内では喫煙はできません。
●会場内では飲酒はできません。
●会場内では携帯電話の使用はできません。

模型サークルB.M.C.の
代表者 藤岡俊平氏
〒111-0032 東京都台東区浅草橋3丁目1-9 東商センター展示場A室



眞田 季風氏(2019年・M卒) | F-111 (戦闘機)

「工芸高校在学中の経験を活かし計画的に制作しています。説明書通りにただ組むのではなく常に考え効率の良いやり方を追求しています。」

藤岡 俊平氏(2014年・M卒) | フォルクスワーゲン T1 キャンパーバン

校友の活躍

第69回日本伝統工芸展

日本伝統工芸展は令和4年9月14日（水）26日（月）日本橋三越本店において開催され、4名の校友が入選展示されました。期間中、松原伸生氏らによる着物の文化等のトークショーがありました。

金工部門

桂盛仁氏（1964年・A卒）人間国宝
「鶴影香盒」



大沼千尋氏（1970年・A卒）
切嵌銀花器「白の連山」



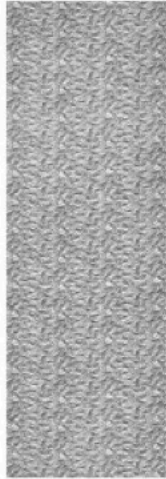
木竹工部門

須田賢司氏（1973年・F卒）人間国宝
檜と楓の卓「校倉」



染織部門

松原伸生氏（1984年・D卒）
長板中形麻地着尺「葉陰文」



第9回日展(日本美術展覧会)

国立新美術館において令和4年11月4日（金）27日（日）開催されました。春山文典氏、田中照一氏、尾澤勇氏3名の校友の作品が入選展示されました。

春山文典氏（1964年・F卒）
「山車」



田中照一氏（1964年・A卒）
「暁の清流」



尾澤勇氏（1982年・A卒）
「鳥海風―縄文の風―」



中村保弘氏

ドイツのiFデザイン賞金賞と
レッドドットデザイン賞を受賞

・iFデザイン賞は1953年以来、世界で最も権威のあるデザイン賞の一つ。
・レッドドットデザイン賞はドイツのノルトライン・ヴェストファーレン・デザインセンターが主催する国際的なデザイン賞。

中村保弘氏（1971年・D卒）



CROSSA(クロッサチェア)

事務局より

一般寄附し芳名

昨年7月23日以降、本年2月28日まで、ご芳志をお寄せいただいた方々は次のとおりです。どうもありがとうございました。

(順不同、敬称略)

山田一彦、日置雄毅、服部功、阿部百華、若松延男、中代源次郎、猪俣新治、庵隆、井上稔、関根伸司、浦本勝之亮、愛甲喬、板木靖男、前園もも、山崎邦男、丸山士郎、不二山伯、服部綾佳、井上伸行、渡部なお、駒村武夫、西田耕一郎、橘正春、中村圭佑、所和男、安室典忠、間中辰男、松本七五三吉、石田武史、笠井剛、萩原巧三、長谷川裕、小宮富士夫、福永真弓、長谷川奏、須田賢司、宮崎忠夫、後藤玖、梶崎重信、宇都木俊徳、植村明恵、松原伸生、杉本弥和子、加藤六朗、津久井弘光、菊地和浩、柿坪英志郎、福島彰生、植村利男、福田満、遠藤悟、金子満、松田襄、柏崎道子、山口博幸、今井定義、村田恵子、森田孝雄、和田義幸、山本雅雄、服部真澄、永坂景子、松原美穂、岩下彰子、片寄愛、氏家美佐、菊地有悟、近藤愛友海、飯田玲子、桂剛、石川利夫、青野博、小林佑光、新井徹夫、平光和人、福本章、石川昭夫、青山正男、鈴木敏夫、伊崎憲利、戸村正二、古木嘉雄、小口輝夫、栗原みなみ、恩田隆志、服部一、鍋島節子、鈴木宜喜

飯田眞実、栗田義夫、小川政之、武田和之、小林弘、時澤洋一、久保田晃、久保田真奈美、黒田晴香、川上恵美、石井琢人、山田恵穂、栗原武司、池田博、上原伊織、金素希、赤羽根大、神藤一夫、田口公一、林兼明、山田寿美、奈良春雄、森田伊富貴、狩野翠里、伊藤早苗、福島儀夫、飯田玲子、大野早苗、佐藤菜々緒、加々美京子、亀田昭治、木下晴雄、中澤泰男、山口博幸、三橋宏之、地濃正明、三浦利征、木暮敏江、田中桜、福田佳代、野口桜、藤本威、菅藤剛、小林久展、小泉久吉、細江邦雄、栗原みなみ、宇都木邦明、松富壽嗣、大久保健二、熊澤ひより、水谷紗那、宇佐美賢次、小野塚均、飯塚邦雄、嘉藤公一、多田洋一、奈良春雄、伊藤早苗、矢野利明、福田哲夫、千明敏浩、木村奈央

2022年度累計 674,500円

訃報

前回の会報180号以降、本会宛にご連絡がありました方々は、次の皆様です。ご冥福をお祈り申し上げます。

(内は逝去された日です。)

亀田昭治氏 旧職員 (R1.6.18)
 安原敏郎氏 S18A卒 (R4.9.16)
 金親二郎氏 S24A卒 (R4)
 久保田泰弘氏 S24A卒 (R4.8.8)
 石川吉通氏 S25M卒 (不明)

ホームページ関連QRコード

			
都立工芸全日制 ホームページ	同窓会会費 クレジット支払い	同窓会 お問い合わせ&投稿	同窓会ホームページ
			
都立工芸定時制 ホームページ	同窓会 Twitter	機関紙「こうげい」 バックナンバー	

飯田慶雄氏	S 28 F 卒	(H 30.3.4)
長谷川裕氏	S 30 D 卒	(R 4)
永妻盛道氏	S 33 A 卒	(R 5.1.7)
大澤秀夫氏	S 34 A 卒	(R 2.3)
赤堀公彦氏	S 34 A 卒	(R 3.8)
廣井清氏	S 34 A 卒	(R 4.6.29)
西威男氏	S 35 F 卒	(R 4.3.6)
西村征一氏	S 36 M 卒	(R 4.6)
脇島邦雄氏	S 36 M 卒	(R 3.9)
浦本勝之亮氏	S 36 P 卒	(R 4.4.21)
伊藤和夫氏	S 39 D 卒	(R 5.1.30)
豊岡恵子氏	S 43 D 卒	(R 2.12.8)

Best Brave Benevolent

可能性を実現。未来づくりはおもしろい。

レオナルド・ダ・ヴィンチ工房をめざして 医療器の開発に取り組んでいます。

SOFKEN 株式会社 ソフケン


3Bの贈り物



(スマートフォンから会費納入ができるようになりました)

同封の「払込取扱票」のお名前の下に印刷されたバーコード(下図)から会費の納入ができます。利用できるのはLINE Pay(ラインペイ)、PayPay(ペイペイ)、au PAY(エーユーペイ)、PayB(ペイビー)です。アプリで読み取ると支払い画面になり、確認して納入の終了です。

(画面に表示されるサラトは会費納入の代行業者です)



CVS本部控え

ご依頼の際は、お名前・お住まいをご記入ください。(※印刷番号17345 48)

2022年

工芸祭レポート

在校生たちの笑顔が盛況を取り戻す

令和4年10月29・30日「2022工芸祭（平日・定時制）」が本校校舎にて開催されました。両日ともに来場者は生徒家族、中学生とその保護者、同窓生（各回80名限定）で、午前と午後の計4枠にて感染防止策を徹底しての開催となりました。

スチームパンクを体感せよ！

今年の工芸祭のテーマは「スチームパンク」（蒸気機関が融合され発達したヴィクトリア朝の雰囲気があるSF的世界観）。各科の展示は各階ごと（二部校外）で行われ、廊下や教室はコンセプトや科ごとのテーマに沿った装飾が施され注目を集めました。

今回の見所について在校生からは「駅というテーマに落とし込んでコンセプトを表現しています」「テーマにとられない展示もあり見所満載です」「一番の見所は3年間作ってきた作品たちです」など、意気込みが語られました。

ライブやパフォーマンスも！

各展示の他にも部活動の発表や催しも注目を集めました。

茶華道部によるお茶会の実演は感染防止

対策のなかでも凜として美しく丁寧な所作を見せ、全日制と定時制の合同による音楽ライブは本格的な音響や照明が楽曲に合わせて演出されるなど共に友人や家族の見守るなか大盛況でした。

また、伝統ある漫画研究部の部誌「どっこいしょ」や文芸部員の短編小説を掲載する「エリマキトカゲ」は開場後にすぐに完売となりました。

がんばれ受験生！

この日は、受験を控えた中学生とその保護者も多く来校しました。受験生からは、「志望する科は決めていないが、実技が多いところが魅力」「皆さんが楽しそうにしているので好感が持てた」という声に対して在校生からは「工芸に入って良かったことがたくさんあるので志望に向かって頑張つて欲しい」など受験生にエールを送りました。

まだまだ制約があるなかでの工芸祭の開催となりましたが、在校生のモチベーションは高く、コロナ禍も吹き飛ばす笑顔が校内いっぱい溢れていました。

井出賢一（1986年・G卒）

杉原由美子（1992年・D卒）

工芸祭レポート拡大版はホームページの母体情報からご覧いただけます。
<https://www.kogeib.com/bokou/>

■2022工芸祭が開催されました！在校生たちの笑顔が盛況を取り戻す

■スタッフブログ3 卒業以来30年振り返りの工芸祭 部活1打ち込む生徒にはればれ♡



デザイン科生徒による巨大外看板



茶華道部によるお点前の実演



文芸部の部誌「エリマキトカゲ」



わかり易い展示を心掛け入口に掲げられた大きな案内図

技術資料の制作 PLANNING CENTER STATION.M 有限会社ステーション.エム

取扱説明書 3D 音楽 通販

マニュアル Service Manual Translation Technical Illustration 3D Music Mail-order selling

有限会社 ステーション・エム 代表取締役 細江 邦雄(M41)

本社 〒162-0828 東京都新宿区袋町25細江ビル 電話 03-6280-8455 FAX 03-6280-8456 <http://www.station-m.co.jp/> e-mail: hosoe@station-m.co.jp

母校だより

全日制デザイン科

『おおしま国際手づくり絵本コンクール 2022』金賞・富山県知事賞受賞！

富山県の射水市絵本文化振興財団主催『おおしま国際手づくり絵本コンクール 2022』に今年も全日制3年D科の編集デザイン班が挑戦いたしました。

今年の応募作品数は695点。その中から、西村野乃さんの作品『くびをもたげたきょうりゅう』が金賞・富山県知事賞を受賞いたしました。



また、佐々木さん、土田さん、荒さんの3名も入選いたしました。

応募された皆様にとって世界で1冊だけの素敵な絵本になったことでしょうか。



【上】金賞・富山県知事賞受賞作品
【下】入選作品 右「おかのうえのまほうかい」佐々木さん/左上「くびをもたげたきょうりゅう」荒さん/左下「かたおまのうた」土田さん

定時制制作「工芸ねぶた」
「ふるさと祭り東京2023」に
特別展示・出演しました

定時制生徒有志を中心に各科生徒がまとまり、それぞれの得意分野を活かして初めてねぶたを制作いたしました。

題材は「五穀豊穡」。「食」をテーマにお稻荷さんで知られる五穀・農業を司る食物の神「稻荷神」を主体としました。絶えず繰り返される紛争、長引くコロナ禍で、改めて食への感謝と平和への祈りを込め、力強く、鮮やかなねぶたになるよう約4カ月をかけ完成させました。

その成果が実り、今年1月には東京ドーム開催の「ふるさと祭り東京2023」に特別展示され、全国から訪れた入場者約34万人の多くの方々が作品に足をとめ見ていただきました。

また、青森県青森市と弘前市のご厚意により各都市の演者ボランティアとして、「跳人」「曳手」「運行隊列の一員」「提灯持ち」でも参加させていただきました。



「工芸ねぶた」制作風景

コンペ・大会・コンクール等の主な成績

全日制

■ART CRAFT

・東京ドームホテルアクアアートデザインコンテスト
最優秀賞：5名、アクア・アート特別賞：4名、敢闘賞：4名

・第13回アンカットダイヤモンドジュエリーコンテスト 佳作：1名

■MACHINE CRAFT

・全国製図コンクール〔機械系〕 優秀賞：3名、佳作：2名

・20歳未満喫煙防止ポスターコンクール 最優秀賞：1名

・拓殖大学工学部 ORANGECUP2022 優秀賞：1名、入選：2名

■INTERIOR

・第16回 高校生ものデザインコンテスト [クラフト部門] 優秀賞：1名、優良賞：3名 [インテリアデザイン部門] 優秀賞：1名、優良賞：2名、奨励賞：2名

・第34回円波の森ウッドクラフト展 [ジュニアの部]

準グランプリ：1名、特別賞：1名

・ICS DESIGN AWARD 2022 最優秀賞：1名

・東京都建設系高校生作品コンペティション2022

[家具部門] 最優秀賞：1名、優秀賞：1名、CCI東京特別賞：1名、審査員特別賞：1名 [模型部門] 優秀賞：1名、CCI東京特別賞：1名

[ポスター部門] 優秀賞：1名、審査員特別賞：1名

・少年の非行防止ポスター展 [高校生の部] 最優秀賞：1名

■GRAPHIC ARTS

・「いきいきシアターの集い」(文京区) 採用：1名、入賞：2名

・少年の非行防止啓発ポスター 優秀賞：2名

・未成年者喫煙防止ポスターコンクール [高校生の部] 優秀賞：5名

・8020運動ポスター入選：1名

■DESIGN

・第11回文京区社会を明るくする大会

ポスター、チラシ原画採用：1名、

プログラム表紙イラスト採用：1名

・文京・見どころ絵はがき大賞 文京建築会賞：1名、

東京ドームシティ賞：1名、作品賞：2名、団体賞：1件

・おおしま国際手づくり絵本コンクール 金賞：1名、入選：3名

・〔冊子〕“翔” 専門高校生生徒体験発表文・作文・研究文集

表紙 採用：1名

・明るい選挙ポスターコンクール 東京都優秀賞：1名

・第29回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表会

最優秀賞：1名

・白泉社「花とゆめ」第55回HMCまんが家コース 優秀賞：1名

・講談社「週刊少年マガジン」MGP3月期 奨励賞：1名

・講談社「少年マガジンエッジ」第9回エッジCOMICアワード大賞：1名

・第20回全国落校サミット文京大会 キャラクターデザイン採用：1名、大会ロゴデザイン採用：1名

—

資格取得・検定合格

■MACHINE CRAFT

・危険物取扱者乙種1-6類総計：57名

・福祉住環境コーディネーター検定3級：1名

・計算技術検定1級：4名、3級：4名

・機械製図検定16名

■INTERIOR

・技能検定家具製作〔家具手加工作業〕2級：1名

・第89回建築CAD検定試験2級：3名、4級：12名

・ジュニアマイスターシルバー：3名、ブロンズ：1名

■複数の科

・基礎製図検定 (ART CRAFT, MACHINE CRAFT, INTERIOR) 90名

・ガス溶接技能講習 (ART CRAFT, MACHINE CRAFT) 38名

・色彩検定 (INTERIOR, DESIGN) 2級：11名、3級：34名

—

定時制

■INTERIOR

・第16回高校生ものデザインコンテスト

[インテリアデザイン部門] 優秀賞：1名、優良賞：1名

・第23回生徒研究成果発表会 特別賞：4名

・2022年東京都建設系高等学校作品展 東京建設会会長賞：1名

[工芸部門] 優秀賞：1名、CCI特別賞：1名

■GRAPHIC ARTS

・明るい選挙啓発ポスターコンクール 東京都入選：1名、文京区

優秀賞：4名、佳作：1名

・歯と口の健康に関する図画・ポスターコンクール [高等学校の部]

ポスター〔CG〕3位：1名、図画・ポスター佳作：1名

・定通芸術祭 [展示部門] ポスター採用：1名

・文京区役所職員互助会公認サークル演劇サークルブレイメン

ポスター採用：1名

—

資格取得・検定合格

■ART CRAFT

・パソコン利用技術検定2級：6名、3級：3名

■MACHINE CRAFT

・第87回計算技術検定3級：2名

・フォークリフト特別教育講習：2名

・アーク溶接特別教育修了：5名

・ジュニアマイスターブロンズ：4名

・機械検査技能検定3級：3名

・粉じん作業特別教育修了：1名

・振動工具取扱作業安全衛生教育修了：1名

■複数の科

・ガス溶接技能講習 (ART CRAFT, MACHINE CRAFT)：4名

・基礎製図検定 (ART CRAFT, MACHINE CRAFT, INTERIOR)：18名

・色彩検定 (MACHINE CRAFT, INTERIOR, GRAPHIC ARTS) 2級：5名、3級：4名

・定通芸術祭 [展示部門] 金賞：3名、銀賞：2名、銅賞：5名

・ふるさと祭り東京 (東京ドーム) 展示参加：16名

・〔水泳部〕第60回東京都高等学校定時制通信制総合体育大会 兼 第75回東京都高等学校体育連盟定時制通信制水泳部 水泳競技大会 入賞：6種目

・〔剣道部〕第60回東京都高等学校定時制通信制総合体育大会 剣道男子個人戦第4位：1名

都立工芸同窓会 会長
梶 広幸

(1969年・D卒)

都立工芸同窓会 副会長
岡田 里美

(1989年・F卒)

都立工芸同窓会 理事
榎坂工芸社 代表取締役
坂巻 章雄

(1980年・A卒)

都立工芸同窓会 監事
株式会社パイック 代表取締役
桜井 洋一

(1968年・F卒)

都立工芸同窓会 理事
神山 隆夫

(1968年・A卒)

一般財団法人築地工芸会
工芸基金理事長
大賀 勉

(1970年・P卒)

関西工芸会 会長
丸山 士郎

(1968年・A卒)

中京工芸会 会長
五反田 稔

(1960年・M卒)

都立工芸同窓会 副会長
磯野 祥

(1989年・A卒)

都立工芸同窓会 副会長
佐々木 慎一

(1973年・P卒)

都立工芸同窓会 理事
㈱ステーション・エム 代表取締役
細江 邦雄

(1966年・M卒)

都立工芸同窓会 監事
荒井 拓哉

(1960年・D卒)

㈱フォレスト 会長
茂木 益雄

(1955年・P卒)

小学生用水平開き学習帳製造販売
米・欧特許取得ノート発売
㈱中村印刷所
中村 輝雄

(1963年・P卒)

㈱ソフケン代表取締役
駒村 武夫

(1965年・D卒)

50年史を探しています

同窓会では50年史『工芸50年』・80年史『工芸学校80年史』・工芸学校・夜間制度80年の足跡・90年史『工芸学校の90年』・100年史『都立工芸100年の歩み』として歴史を纏めてきました。同窓会ではこれらをデジタル化し今後ホームページなどで皆様への供覧を検討しております。しかし大変残念な事ですが同窓会事務局に『工芸50年』が保存されておられません。『工芸50年』をお持ちの方、あるいはお持ちの方を、ご存知の方がおられましたら「ご連絡いただければ幸いです。」ホームページの投稿欄、あるいは下記事務局への「ハガキ」での一報をよろしく願いたします。

